

# 弘法さんかわら版

発行編集部

大塚和洋事務所

☎057-757-1955

kouhei@oh-kouhei.org

残暑お見舞い申し上げます。先月二六日、二七日に行われました「覚王山夏祭」は天候にも恵まれ、たいへんな賑わいでした。事務局の皆さん、ボランティアの皆さん、出店者の皆さん、本当にお疲れ様でした。

## ★以前の札所は一軒家？

先月の弘法さんの日に、日泰寺本堂東側のB地区をやや北へ歩いた所にある二二番札所で貴重なお話を伺うことができました。二二番札所は、今は大人二人が入れるくらい小さな祠(ほこら)ですが、戦後間もない頃は八畳二間に台所も付いており、一時は一家五人が住んでいたそうです(かわら版第八号でお伝えしたことの事実確認ができました)。そのご家族は、今でもご恩返しとして札所の世話をされているそうです。



## ★観光客で溢れた「放生池」

さて、二二番札所を北に進むと日泰寺の参拝者大駐車場があります。ここには以前「姫が池」という池がありました。したが、別名「放生(ほうじょう)池」とも呼ばれていました。昔は観光名所であり、コイやフナが群れをなし、池の周辺には売店が軒を並べていました。かわら版編集部の面々も子供の頃は「放生池」で釣りやザリガニ捕りをしていました。

「放生」とは、捕らえられた魚や鳥を逃がしてやることです。人間は日頃

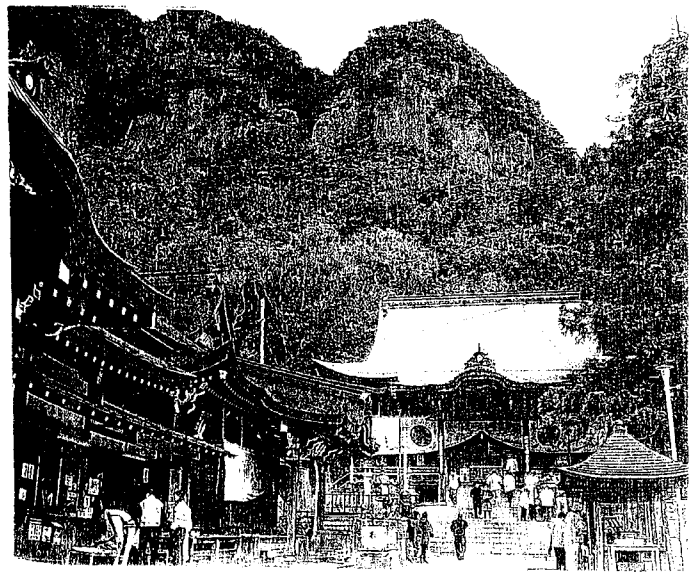


の食生活や日常生活で多くの殺生(せつじょう)を行つてゐることから、功德を積む意味で「放生」という考え方が生まれたそうです。起源は中国ですが、日本では**天武天皇**の命で始まったとも言われています。全国の寺院には「放生池」や「放生会(ほうじょうえ)」と呼ばれる縁日があります。

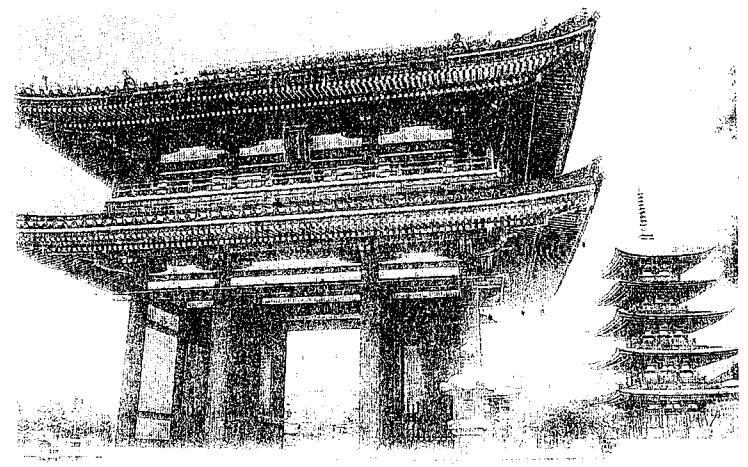
### ★山号の歴史

ところで、**覚王山**が日泰寺の**山号**であることは以前にご紹介しました。お寺の名前に山号をつけるようになったのも、その起源は中国です。日本では、奈良時代の飛鳥寺でも法隆寺でも山号はなく**寺名**だけでした。

平安時代になって、**最澄(伝教大師)**や**空海(弘法大師)**が中国から帰国し、山中に寺を建てるようになって山号



が普及したそうです。そして、**比叡山延暦寺**、**高野山金剛峰寺**の建立によつて山号は完全に定着し、鎌倉時代には平地の寺まで山号をつけるようになったそうです。



### ★新しい覚王山マップ完成!

新しい「**覚王山マップ**」が完成しました。新しいお店や情報が盛り沢山です。覚王山商店街の店頭や大塚耕平事務所にあります。ご自由にお持ち帰り下さい。覚王山周辺は、面白いお店や史跡がいっぱいです。名古屋の新しい観光名所となるように、今後とも日泰寺や日本最小の札所の話題をご紹介します。乞うご期待!